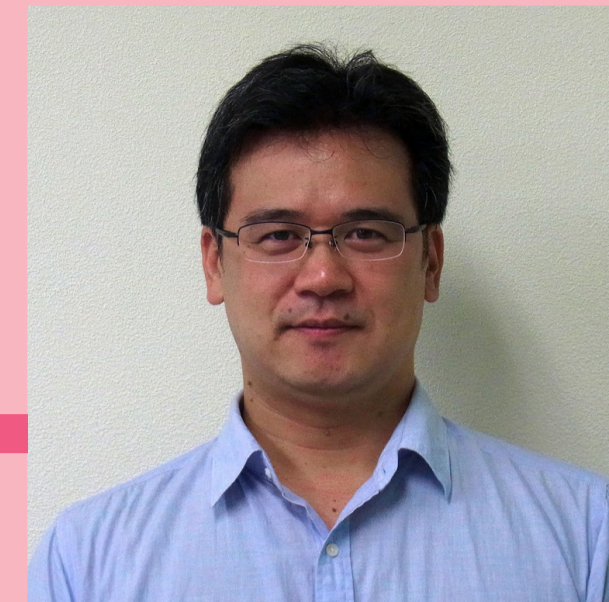


民間事業者がつくる小さな「提供公園」



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

赤澤 宏樹

<開発と共に増える「提供公園」>

マンションなどの開発をする際に民間事業者が公園をつくり、自治体に寄付する「提供公園」という制度があります。しかし、この提供公園は民間事業者(=入居者)のものにならないので、とても簡素なものをつくる場合も多くありました。自治体も、豪華な提供公園を寄付されても、管理にお金がかかるので、簡素なものを求めることもありました。結果として、簡素で小さい公園が数多く生まれたのです。

近年、寄付を求めず、管理も住民が行う「寄付無し・自主管理」の提供公園がみられます。ここで「自治体に寄付しないのであれば、民間事業者はもっと好きに簡素な公園をつくり、管理もしないのではないか」という心配がでてきます。

<寄付無し・自主管理の現状>

「寄付無し・自主管理」を導入した尼崎市で、民間事業者がつくった提供公園を全て調査しました。一般的な提供公園より周辺に開かれたデザインで、管理も行き届いたものが多いという結果でした。古くから「寄付無し・自主管理」を続けている神戸市で、昭和59年から平成28年までにつくられた259事例を調べたところ、樹木や遊具、ベンチの数が多い公園ほど、入居者が自分たちで管理していると認識しており、満足度も高いことがわかりました。以上のことから、民間事業者が自分たちの財産として公園を整備・所有し、自分たちで管理すると、満足度も上がるということがわかりました。

